

第9回 大宮グランドセントラルステーション推進会議 議事録

開催日時：令和元年11月14日（木）15:00～17:00

開催場所：高鼻コミュニティセンター

出席者

氏名	選出区分	備考
岸井 隆幸	学識経験者	日本大学 理工学部土木工学科 特任教授
久保田 尚	学識経験者	埼玉大学 大学院理工学研究科 教授
窪田 亜矢	学識経験者	東京大学 大学院工学系研究科 特任教授
沖田 定男	地元まちづくり団体	大宮駅東口駅前南地区まちづくり推進協議会 会長
栗原 俊明	地元まちづくり団体	大宮駅東口西地区まちづくり推進協議会 会長
町田 宏遠	地元まちづくり団体	大門町一丁目中地区市街地再開発準備組合 理事長 (代理：副理事長 坂 仁視)
齋藤 巖	地元まちづくり団体	大宮駅東口北地区市街地再開発準備組合 理事長
小山 宏	鉄道事業者	東日本旅客鉄道株式会社 総合企画本部投資計画部 担当部長
横尾 武士	鉄道事業者	東日本旅客鉄道株式会社 大宮支社 総務部長
吉野 利哉	鉄道事業者	東武鉄道株式会社 常務執行役員 鉄道事業本部長
大野 明男	鉄道事業者	埼玉新都市交通株式会社 代表取締役常務
竹島 晃	関係行政機関	埼玉県 企画財政部 参事兼交通政策課長
望月 健介	関係行政機関	さいたま市 都市局長
会田 浩一	関係行政機関	さいたま市 大宮区長
工藤 和美	デザイナー	一般社団法人アーバンデザインセンター大宮 センター長 (代理：副センター長 藤村 籠至)
奥田 謁夫	オブザーバー	国土交通省 都市局 街路交通施設課 街路交通施設安全対策官
菊地 英一	オブザーバー	国土交通省 関東地方整備局 建政部 都市調整官
梅津 武弘	オブザーバー	独立行政法人 都市再生機構 東日本都市再生本部 事業企画部 担当部長

次第

1. 開 会

2. 議 題

<会 長> 第9回推進会議を開催する。前回は3月に開催し、その後GCSプラン骨子案について、7月からパブリック・コメントをいただいた。この間、両先生を中心として部会を積極的に開き、合同部会も何度か行っていたと伺っている。また地区の皆様にはご意向を確認するヒアリングをさせていただいた。今日はそういったものを一旦整理させていただくということでGCSプラン案のたたき台が提示されている。

議事次第の①と②は全体がグランドセントラルステーション化構想の全貌に迫るので一括してご説明いただくが、2回に分けて議論させていただく。ガイドラインの全体像まで一度説明を切り、一旦議論を整理し、個別整備計画を説明していただき再び議論したい。

まず事務局から資料の説明をお願いしたい。

<事 務 局> 資料1（第8回推進会議の振り返りと両部会での検討内容）と資料2（（仮称）GCSプラン（案）たたき台）のまちづくりガイドライン部分について説明。（一部UDCO 藤村副センター長が説明）

<会 長> プラン案のたたき台をご紹介いただいた。この後は個別の整備計画としてパーツが出てくるという理解である。

前回の骨子案のときにはパースが先行していろいろな議論があった。大きな目標、あるいはたたき台の目標のいくつかについては文言としては出ていたが、今回はそれを方策という形でもう1つ書き込んだ形になっている。イメージを伝えるものが出て、こういう方針で進めていくということを最初にしっかりと書きたいということかと思う。両先生から補足があればいただきたい。

<窪田委員> 3点申し上げたい。1点目、まちづくりガイドラインはまちづくりに関わる人全員が共有して、これを目指してやっつけようという1つの指針になる最も重要なものであるが、まちづくり推進部会だけで話をしていると他の皆様との話し合いができない。今日は貴重な機会だと思っている。いろいろなご意見を伺いたい。

2点目、これまでまちづくり推進部会で話し合ってきたことが、前回のデザイン調整ワーキングや合同部会の中でかなり具体的な空間としてVRや模型と

して提示されてきたが、今まで頭の中でイメージしていたものと実際のものに相当な差があったと思っている。この差を埋めていく作業をまちづくり推進部会でもしていかなければいけないのだが、このままの方向で大丈夫なのかというあたりが資料になっていると感じている。

3点目、個人的な意見だが、GCSプラン（案）たたき台について、「大宮でやっている」ということがよく伝わらない。これから写真等も大宮らしいものに変えていくということなので期待しているが、写真やポンチ絵だと曖昧すぎる。大宮の価値をどのように理解して、どのようにこのまちの中でプロットされていき、どういう空間であるのかということである。この構想の論拠というか、こういうものが大切だと我々は考えているといった確固とした思いがはっきりと伝わるものにしていただきたい。

もちろん駅前広場は整備するわけだが、それだけではなく、大宮全体をどうするかというまちづくりの話である、床面積の話などは今までまちづくり推進部会でできてないが、そういった全員が守るべき重要な論点、機能も話し合っていかなければならないのではないかと。これはまちづくり推進部会の議論で見えるかもしれない。

<久保田委員> 基盤整備推進部会は主に今日の後半に議論することになるので、今の時点で特にコメントはない。

一部名前がわかりにくい部分がある。GCSプラン（案）たたき台のP.10にアーバンパレット、P.11にストリートテラス、P.12におもてなし歩行エリア、P.13に辻空間が出てくる。このあたりの関係性を整理しないと一般の人にはわかりにくいのではないかと。

<会長> 意見交換を行いたい。ロードマップの中に、我々はどういうスケジュール感でまとめていかなければいけないかが書いてある。今日は11月の第9回推進会議であるが、できれば3月10日に推進会議を開き、プランとしてのまとめをしたいということである。その間にまちづくり推進部会や基盤整備推進部会、合同部会が開かれ、まとめに入るということである。

今日すべてのことを決めなければいけないというわけではないが、残り1回で全体のまとめをしていかなければならない。懸念していることがあれば多くご発言いただき、これから3カ月から5カ月間でこなし一定のまとめに向かっていきたい。各委員からぜひご意見をいただきたい。

窪田先生から大宮らしさをうたうべきではないかというご意見があったが、

お答えはあるか。

<事務局> 大宮らしさという点は、デザイン調整ワーキングの中でも議論が活発になされた。きれいな他都市の写真ばかり出ていて大宮らしさが伝わってこないとのご意見をいただいた。事務局としても、こういうことが大事だということがまちの皆さんに伝わるよう、資料を準備してまいりたい。

<会長> 前提となっている大宮の果たすべき役割が P. 2 に書いてある。この検討会議ではそういった議論を重ねて前提になっており、ある種の暗黙の了解の元に今回のまちづくりガイドラインが書かれている。まとめとして提示するとすれば少し補強したほうが良いかもしれない。どういうことを目指しているのかということをもう少しわかりやすく、他の方が見たときに読み飛ばされると、何をやろうとしているのかがわかりづらくなってしまう。最後にまとめるという意味において全体のバランスを見ていただき、工夫していただきたい。

<沖田委員> これまで構想実現案第 1 案と第 2 案が示されてきたが、南地区は今まで第 2 案を支持してきたが、今回プランを様々な角度から検討し、第 2 案から第 1 案での検討に切り替えることを決議した。第 1 案をブラッシュアップしていけばよいと思っている。

<会長> 個別地区の話が出てこないと全体の話が議論できないかもしれないが、まず全体に関してご注意があればいただき、個別の説明していただいてから議論を深めたい。今回のまとめ方全体に関して何かご意見があればいただきたい。

<齋藤委員> GCS プラン(案)たたき台ということで、前半説明いただいたが、文字だけで見るとものすごく素晴らしいことが書かれているように思われるのだが、まだまだ話し足りていないところもある。文字を絵に起こして VR を作るのは非常に難しいことだと思う。資料 2 の P. 25、P. 26 にイメージパースがあるが、デッキの大きさについての議論が進んでいない中で、VR の中でもデッキが大きく張ってある形になって、いかにもそれが前提のような印象に受け止められる。扱いを慎重にしていきたい。我々はまだ決定事項ではないという理解をしている。議論の余地があるということで進めていただきたい。

<会長> 資料 2 の P. 7、P. 8、都市空間形成の目標が左に 6 つあり、それぞれの整備方針が 4 つほど書いてある。ここまでは骨子案から出てきたもの

であり、これは今回変えていない。指針を位置づけする中身ということで方策案が個別に詳しく書いてあり、それに写真や絵がある。その写真や絵がやや書き過ぎではないか、まだ決まっていないことが書いてあるのではないか、写真が妥当ではないのではないかというご意見もあると思う。個別案のまとめり具合に応じて直していき、共通の理解にしなければいけない。特に写真のイメージが違っているというものはないか。皆さんで考えている言葉での思いが写真を見たときに共有していなければ混乱する。おかしな写真があればご指摘いただきたい。どう直すかは別であるが、皆さんのイメージは同じものに向かっていかなければならないので、そこはぜひご意見があればいただきたい。

窪田先生からあったが、大宮の位置づけ、大宮らしさを理解していただくには大宮のことをしっかり書いておかないと、パッと読んだ人がわかりづらいというのは大きな問題である。

<久保田委員> 個人的意見だが、2011年に都市計画学会で学生コンペを行い、大宮の東口を学生の視点でどのように作るのがよいかということをいろいろな大学の学生に提案してもらった。思い出すと、氷川神社、氷川参道が大宮の特に東口のシンボルということで、駅前と氷川をどう結ぶかというアイデアがほとんどであった。その視点で見ると、他の人はこのレポートを見ると氷川神社や氷川参道はどこに出てくるのか気になるのではないか。図の中や文章に氷川という言葉は出てくるが、大宮らしさという点から、今回のイメージとして弱い印象を受ける。

<会長> 窪田先生のご意見と通ずるところがある。大宮でやっているということ、大宮らしさを理解した上で、その先にこういうことを付加していきたいという思いで書いているのだが、前半部分がないとどのまちでも同じになってしまう。工夫したい。

私の個人的な意見となり好き嫌いもあると思うが、写真がイメージといまひとつ合っていない。P.5の地域の特性が見える空間のイメージはよくわからない。P.6のスポーツ文化が育まれる広場のイメージも何を意図しているのかわからない。道路で分断されないまちのイメージも分断されているのではないか。写真は真剣に選んでほしい。P.10のまちとえきをつなぐ歩行者空間のイメージはよくない。ああいうものを作っては駄目である。工夫していただきたい。みんなが思っている空間のイメージと写真が違っていればこの場

で言っていただくと思いが共有できる。私が今言ったものは大宮のイメージと合っていない。こういう空間を作るのではないと思う。
個別整備計画の説明をしていただき、その上で議論したい。

<事務局> 資料1（第8回推進会議の振り返りと両部会での検討内容）と資料2（（仮称）GCS プラン（案）たたき台）の個別整備計画部分について説明。

<会長> 久保田先生からコメントがあればいただきたい。

<久保田委員> 基盤整備推進部会と合同部会の状況を受けてご報告する。

資料1のP.14、東武駅舎の位置については南進の距離という意味で案①の計画を具体化していくということで合同部会として確認した。

P.17の第1案、第2案については、P.18の合同部会の意見のところにあるとおり、第1案、第2案だけではなく、他にもあるのではないかという意見があり、合同部会として第1案、第2案どちらかで行くと決めたわけではない。

P.18、タクシーの分散配置案は新しい話である。これまでは骨子案のときから地下にタクシープールを作るということで進めてきたが、隔地にタクシープールを作るという新しい案が出てきた。これも含めて今後タクシーについては検討し直すことになった。

資料2、P.38、シミュレーションによってこれから開発と道路インフラの関係を分析していくことになった。開発のボリュームの前提がないとシミュレーションできないということで、容積率1,000%を前提にシミュレーションすることによって合同部会として合意した。

道路整備計画については、南北と東西の2案が検討の対象になっているが、それぞれ相当大変な話である。時間軸を考えたときに、開発ができるときに道路が整備されているのは無理ではないかという想定であり、P.41からの交通需要マネジメントとして、なるべくここに車が来ないような対策を考えるしかない。本格的にこの議論をしなければ、開発ができて道路ができるまでの間、この周辺が大変なことになってしまうということで、綿密に議論していくことになった。したがって、シミュレーション結果とこの対策の効果を睨みながら、開発のあり方、需要マネジメントのあり方、道路のあり方を、全体のバランスを見ながら検討していくしなければならぬというところで合同部会は終わった。

<窪田委員> 何点が補足させていただくと、大宮の今までを振り返ると、鉄道

事業者をはじめとして交通があつてまちが栄え、まちが栄えるから交通もうまくいくという共存共栄の関係があつたと思う。今回も一緒に議論している中で、P. 46 の公共的空間等を提示いただき、まちづくり推進部会としても期待をしているところである。ここについてはまだうまく情報共有できていない。少しお話を伺いたい。

もう1点は、本当はまちづくりガイドラインと個別整備計画両方で1冊であり、現在便宜上議論を分けているためかもしれないが、前半と後半がつながっているように見えない。大宮が果たすべき役割から、具体的な空間まで一気通貫でつながっていくということが重要ではないか。果たすべき役割の3つ目として「これからの働き方やライフスタイルを提案する」ということを述べておきながら、今までのライフスタイルから脱皮できていないのではないかと思う。大宮駅の今までは後背地として考えられていた住宅がたくさんあつて、都内へ通勤をするというライフスタイルが多くあつたが、もう少し違う考え方がこのまちにはあるのではないか。そうすると、もう一度公共交通のあり方や、あるいは建物の作り方がどんどん変わってくるのではないか。ずいぶん前から申し上げていたが、なかなかそこがこの表の構成だと見えてこない。どういうまちを作るのかということがあつて、初めて公共的空間等の検討エリアの作りにもつながってくる。皆様からご意見をいただきたい。

<会 長> 前半、後半含めて全体に対するご意見をいただきたい。

<沖田委員> 個人的な見解だが、P. 46、東武鉄道の駅舎は駅改良計画の案①のように中途半端に南進するのではなく、もっと南進してJRと乗り換えやすくすることが重要だと感じている。加えて、駅改良計画の案①となるならば、現ルミネは残したままでよいのではないか。現在駅舎があるところに新しい公共的空間を確保してはどうか。

<会 長> 状況の共有をしなければならないが、駅改良計画の案①では東武鉄道は南進していないということなのか。

<事務局> 駅改良計画の案①では東武鉄道駅舎は約60m南進している。

<沖田委員> 私が申しているのは、現ルミネの最南端まで南進しなければ、JRとの乗り換えの利便性向上は図れないのではないかという事である。

<会 長> 部会では議論されたのか。

<久保田委員> 部会では、駅改良計画について案①のような形で進めるということに異論は出ず、合同部会としてはこれでまとめたつもりである。

<吉野委員> 補足させていただく、東武駅舎は 60m ほど今の場所より南に動く。JR との乗り換えに関しては、新東西通路を利用する動線になる。

<会 長> 現ルミネの南端まで動いて中央連絡通路で乗り換えるのではなく、もう 1 本新東西通路を整備するため、そこで乗り換えが十分に楽になるという前提に立っているということである。

<沖田委員> それであっても現ルミネを壊す必要はないと思う。

<会 長> 具体的にその辺りの絵はきちんと書いていかなければならない。

<坂 委 員> 大門町一丁目中地区市街地再開発準備組合を 11 月 8 日に立ち上げた。以前から私どもの街区の再開発構築を考えていた。既に大宮の駅前が都市計画決定された駅前広場のスペースがあったので、私ども単体での再開発を実行に移していくのに苦慮したわけだが、構想実現案第 1 案が提示され、駅前広場の位置が決まってきたと認識している。その中では交通広場が民地の約 40% を公共貢献として交通広場に活用する絵になっており、現状の建築コストを考えたときに残りの部分で民地の事業採算はとても検討できない。今回準備組合を立ち上げ、事業協力者、コンサルと実証検分をしていくことをやっとスタートした。市は 3 月にある程度のイメージを作り上げていきたいというスケジュール感だが、私たちは恐らく 3 月頃に事業協力者が決まり、私たちはこの公共貢献の大きさに本当に事業採算のとれる開発ができるのかという実証検分ができると思われるので、そこからがようやくスタートである。そういったところのスケジュール感は、どのように合わせていけばよいのか。

久保田先生から東武南進の際、部会においては公共的空間等の検討エリアと駅舎と駅ビル等機能の検討エリアについては了解を得たというようなお話があったが、これはいろいろな意見が出ていてペンディングということだったと認識している。

<久保田委員> 先程は図の説明のために案①を使ってお話したが、合意したのは 60m 南進の部分である。公共的空間等の検討エリアと駅舎と駅ビル等機能の検討エリアをどうするかについてはまだいろいろな意見がある。

<坂 委 員> 私どもが検討していくスケジュール感の中には、道路整備の話も密接にかかわってくるので、そこも検討いただきたい。

<会 長> 市の考えも整理しておいていただきたい。今回の GCS プランは、実際は民間の事業が並行して行って実現するわけである。事業には合意形成

やビジネスとしての可能性の確認が要る。このプランの最終的なまとめとビジネスのこれからのチェックとをどう考えて最後まとめるのか。

<事務局> 3月にまとめる構想実現案の形、範囲の決定の仕方についてだと思う。市としては骨子案の中でかなり細かい車路の線形やタクシーの配置まで書いたプランを整理させていただいていたが、今までの議論や今日のご意見を踏まえても、確かにそこにたどり着くのは難しいと思っている。最終的な絵姿の着地についてはこの検討を踏まえて、構想実現案として2つの案の中からとりあえず第1案に絞り込みをするが、まだ多数の意見があるので、3月の時点で方向性として形や規模の目安を提示し、来年度以降プランをまとめた後でも継続して検討していかなければいけない課題を整理させていただくというのも1つの形ではないかと考えている。

<会長> 最後の報告書のまとめのところにそういったことを書くということである。第1案としてこう書いているが、実際には再開発事業の可能性も同時にこれから重ねて検討し、この絵も多少変わることはあり得るということも当然のこととして書いて、このプランとして皆さんに1回見ていただくという感じか。

<事務局> そのとおりである。

<会長> イメージとしてはそういうことで皆さんよろしいだろうか。皆さんもいろいろなところで議論されているので、確定的な絵が決められない。しかし何か決めなければ先に進まないのも事実である。今回、個別整備計画とは書いてあるものの、記載内容を見ると基盤の計画の案が書かれており、建物がどうなるという整備計画は1つも書かれていない。それを進めていくためにも、最初に基盤のあるべき方向性を一旦お示しして、それをベースにもう1度考えていただくという進め方に関しては、一定程度合意いただけるかと思う。

GCSプラン(案)は、骨子案の段階ではいくつか選択肢をお出ししてご意見を聞きながら進めてきた。骨子案と今回の最終のまとめの案が同じ構成なのかという点は少し検討していただきたい。

個別整備計画と書くからには、全体があって個別のことを書いているという説明があって、実現に向かってこれから何をするかといったわかりやすさが必要である。読んでスッと理解できるところまでできなければならない。そうするとより分厚いものになるのではないか。補足をしながらまとめていた

だきたい。

3月までに案が決まっていけばそれをまとめればよいのだが、実際は、記載できる内容までは記載して今後の継続的な検討はこの案をベースにして進めていくということになると思う。その点については一定の合意が取れていると認識している。一方、その根本には大宮をどうしたいのか、何を大切にしてお大宮の空間を作っていくのかという大原則があるべきであり、それは前半の目標や方策などになる。やや抽象的ではあるが、大事にすべきものは同じ認識を持っていなければバラバラな方向に進んでしまうので、きちんと記載すべきである。空間が具体的にどうなるのかについては、事業性の検討や、より具体的な合意形成のプロセスにこれから入ることを踏まえると、なかなか記載しきれないと思う。一定の基盤の方向性については、皆さんからご意見をいただきながら進んできている。それをベースにして事業性をもう一度検討していただくということになるのではないか。最終的にはそういったまとめが今年度の落としどころとなり、それをベースにして今後さらに進んでいかなければならない。

<齋藤委員> 確認だが、構想実現案は第1案で進めるということか。駅前広場や交流広場の広さはまだ決定されていないという解釈でよいのか。

<事務局> 決定したものではない。今後複数の案を持ちながら絞り込んでいきたい。

<会長> P.32に施設規模が書いてあるが、これも変えてよいのか。

<事務局> 必要量については1度合意をさせていただいたものである。この量を分散するのか、駅前に置くのかというところで検討する。

<会長> バス停がいくつ必要かということに対しては、計算の結果であるので、それをベースにして確保していきたいが、絵は決まっていないということである。

<齋藤委員> P.4には最新交通システムの導入されたまちのイメージがある。今は駅前の決まっている広さの中に交流広場、交通広場、バス停を作っていることをやっているが、それは広さ的に無理があると思っている。その中で民地に入ってきている線が書かれている状況になっている。それは決定されていないということで確認はさせていただいたが、例えば先進技術ということになってくるとこれ程の面積が要するのか。決まっている中での場所の取り合いになっている感じがある。その辺の考え方を煮詰めてはどうか。

<久保田委員> バス事業者と市は何度も話をして、部会でも話し合ってきた。バス事業者としては、将来先進的な交通手段が登場して、全く我々の知らないマネジメントの仕組みができ、スペースが要らなくなる世の中が来ないとは言えないが、先進的なものがどんなものか全くわからない中で判断はできないとおっしゃっている。例えば高齢化の社会情勢の影響を受け、むしろ公共交通の重要性は増えている。私も、バスの需要が多くなるのではないかと考えられる中で、今よりバスを減らせる根拠がないまま減らすという議論ができないため、やむを得ないと思っている。

第1回のときに申し上げたかもしれないが、ここには将来、別の交通手段が入ってくる可能性がある。ある程度の空間的な余裕を持つておかなければ、そういったことに全く対応できなくなってしまう。交通広場としての重要性はこの先要らなくなる方向にはならないと思っている。

<会長> あちこちで似たような議論が起こっている。タクシーが今最も危機的で、Uber をスマホで呼ぶという時代になってきて、タクシー業界の存在が危うくなっていたりする。そういったことは近い将来として捉えられているが、その先の自動運転がどの程度でやれるのか、新しい交通手段がどの程度入ってくるのかということはまだよく見えていない。とりあえず現状の形にしたときにはこれぐらい必要という規模があって、それがあれば次の時代も何とか頑張れるのではないか。今新しい交通手段を入れることを前提で書くのは書ききれないのが実態である。特にタクシーのプールは既にショットガンでやっているのだから、目の前に必要なのかという議論は当面の問題としてはあり得ると思う。今回この絵を一度書いてみた上で、事業の採算性が成立するのか、どうやればうまく絵として収めていけるのかというのは、いろいろな可能性を追求していくということだと思う。大宮は広域的な中心都市である以上、最低限の機能はここに要る。結節点の力は落としたいという思いは皆さんお持ちだと思う。そこを前提にしながら議論させていただくということである。

このレポートの最後のまとめ方は微妙なところが残っているが、そういうことをご理解いただきながら、皆様からさらにご意見をいただきたい。

<栗原委員> 東武駅舎の南進は最近になって出てきた話なので扱いがまだ少ないのは仕方がないと思う反面、必ず東武駅舎の話は西地区の話にもなってくる。皆さんがいる場で調整していくのは難しいと思うが、どこかのタイミ

ングでこれに関しては真剣な話をさせていただきたいと思っている。

新東西通路の整備と記載があるが、そのような大規模な通路ができるにもかかわらず、扱いが少ないのではないか。文章として提示されているだけだがこれはいかがなものか。これから個別に詳しく作っていくというところであれば仕方がないと思うが、疑問に思っている。

まちづくりガイドラインについて、氷川神社を含めて現状の絵が1枚もない。個別整備計画でも現状についてはタクシープールとバスの2枚しか写真がない。今のまちをすべて捨てるような印象、もしくは今はよいところがないといった印象にも受け取られかねない。実際はそうではなく、文言を見ても、どこか良いところを伸ばすということが必ずあると思う。そういったところを意識した写真の選び方をしてほしい。例えば比較があるとわかりやすいのではないか。大宮の良いところと良くないところも、写真や絵で提示して、その上で、どうしたいのかという示し方だとわかりやすくなるのではないか。記載量は増えるかもしれないが、丁寧な進め方は必要だと思う。

<会長> わかりやすく読めるものにならないと見てもらえなくなる。工夫したい。まとめに向かって頑張っていきたい。

<横尾委員> 事務局から当社が関わる上での課題を的確にお話しいただいた。今日の話の内容について追加するコメントは特にない。鉄道を運行しながらの工事や、営業中の施設を動かすことになるので、時間軸や代替位置をどうするのか、そういった細かい話はこれから議論していくと思うが、全体的に大宮駅や周辺の地域を活性化することについて、できることは協力していくというスタンスは変わらない。引き続き全体の話と個別の議論、切り離してできることを協力していくというスタンスで議論に加わっていききたい。

<小山委員> 大宮駅の一番の課題は東武鉄道との乗り換えであると認識している。GCS構想の中でそこをどうやって解決していくのか。今回東武の南進距離が決まったということで、新東西通路に関してもいろいろなバリエーションがあり議論は続いていくと思うが、今回は南進距離が決まったということなので、それを前提に引き続き議論させていただきたい。

<会長> 乗り換えを便利にすることがこの中で決まったということがわからなければならない。読み込んで初めてわかる様ではよくない。

他にはいかがか。国から何かご意見はいただけないか。

<奥野ガバー> 地域の方々が一生懸命お考えいただいて、よいまちづくりをし

っかり応援するというのが私たちのスタンスである。しっかりとご議論いただいた上で、皆様のご意見が形になったものを応援させていただきたい。引き続きご議論いただくことを願います。

1点コメントするとすれば、たたき台を見ていてよいと思っているのは、P. 9、P10、P11 に書いている方策案で、デッキレベルをつなごうとか、新東西通路もつなぐこと、交流広場を整備することが書かれてある。書いてある以上は実現していくのだと思うが、将来いろいろな議論があったときに立ち返るのはこの部分だと思う。1つ1つ読み解いていただいて、後半の実現案のところにもこの方策案を生かしてこのようにしたということが見て取れると、前半と後半の分断がなくなると思う。文字や写真では感じにくいかもしれないが、アイデアを出していただきながら、ここに書いてあるものにみんなが納得できるものとして3月にでき上がるとよいし、私どももそれを応援できるので、期待している。

<会 長> UR からお発言はないか。

<梅田オブザーバー> 今後構想実現案第1案を採用するとすれば、中地区の中に交通広場が入ることになる。一方で、中地区の再開発を考えていくと、交通広場を受け入れたときに本当にその費用が賄えるのか、その費用を含めて再開発が実現できるのか等を検討していくことになるが、その過程で、例えば、費用が賄えないとか、地権者の合意が進まない等の理由で軌道修正が必要になることもあるのではないかと思う。その様な軌道修正が必要となった場合、該当する地区だけで考えたり、悩んだりするのではなく、1度立ち戻って全体で再度議論し、軌道修正が必要ならばする体制が構想策定後もとれるのであれば、実現に向けて今後検討を本格化される各街区の皆さんも安心できると思う。

<会 長> 市からどのように今のご意見を捉えるかご発言いただいたほうがよいと思うが、例えば各地区の再開発に関しては、道路を挟んで隣に位置するわけであるから、この地区がなかなか厳しい、この地区は多少頑張れるというのであれば、計画を少しずらすことで、当然全員が Win になることはあり得ると思う。かといって、1地区だけでこれはできないから外に持って行ってくれと言っているとまとまらない。各地区がいて案がようやくまとまる。今後の話としてはどのように進めるのか。

<事務局> GCS プランがまとまった後、交通広場を再開発事業との関係で実

現していくことが難しくなった際は軌道修正できるよう、プランができた後でも個別の整備計画でそれぞれの専門部会のようなものをつくりつつ、このプランを回していく必要があると考えている。現時点ではどういう組み立て、どういう組織で個別の計画を動かす会議体をもつかというところまで整理はできていないが、3月のGCSプランのまとめの際にはそういうこともお示ししたい。

<会長> 私は、ここに4地区の皆さんがいること自身が大進歩だと思っている。以前は大宮のまちをどうするかという議論がうまく進まなかったことを考えると、みんなで考えようとテーブルについていただいて1つまとめかけているということは大進歩だと思う。この形をうまく継続して事業に軟着陸する方法をぜひ市で考えていただきたい。どういう仕掛けがよいのが3月にうまくまとまっていればそれがレポートになればよいので、頑張ってください。

埼玉新都市交通から何かご意見はあるか。

<大野委員> 現時点でコメントすることはない。これからも議論に加わっていききたい。

<会長> 東武鉄道から何かコメントはあるか。

<吉野委員> 我々としてはJRとの乗り換え利便性向上の話に加え、安全性の向上の実現も含めて、2面3線化を考えたところである。駅改良計画に関しては案①で具体化していくという記載のとおり引き続きよろしくお願いしたい。

<会長> 先ほど各地区の皆さんが一堂に会して方向性を議論できたのは大進歩だと申し上げたが、もう1つ、東武とJRがこれで行こうと決めていただいたのはとても大きな進歩である。乗り換えを何とかしなければならないというのが課題だとみんながわかっていながら、言い出したほうが損をするというのが鉄道の世界で、なかなか言い出せないという中では、一定の方向性を打ち出していただいたのは大きな進歩である。これをうまく実現しながら大宮を変えていくことについてご協力いただきたい。

<竹島委員> 鉄道の乗り換え利便性については多数の要望がある。方向性が案①で具体化していくということが出てきたということは本当によいことだと思っている。ぜひ議論をさらに深めて、なるべく早期にできるような形で進めていただきたい。

<会長> 県もぜひご支援いただくよう、よろしくお願いする。

<窪田委員> いろいろな進歩があったということも改めて感じる。来週まちづくり推進部会がある。決めながら進めていくという方向で頑張りたい。

<久保田委員> 地元の皆さんにとっては人生がかかっているわけである。それぞれいろいろな思いを持っておられる。いよいよこれから大詰めに向けていくわけだが、公式な場以外にも皆さんとお話する場を作り、極力多く話ができるようにして意見が集約できるようにしていきたいと思っている。

<会 長> 紆余曲折あり、まだ全部決着がついていない部分もあるが、こういう場ができて、それなりに合意が進んできているのは大変よい方向に動いていると理解している。

最近の一般論だが、駅前広場を作る、道路が整備されるということだけでは他都市との競争に勝てない。広場をどう使うかということや、お客さんや通行する人にとって魅力的かどうかという点が、まちに来ることや、まちに住んでみようということにつながる。空間を豊かにしたり緑を多くしたり、最低限のことは必要だが、そこで何をするのかということについて、何かチャンスがあることや、楽しめそうだとしたこと引き続き実行していかなければならない。最近のまちづくりでは競争は大変激しい。特にネットの社会がものすごく進んでいる。生で自分が体感できることが魅力でないと、人はまちなかなか出ていかない。皆さんでこのまちは面白いなとみんなに思っただけのように引き続き頑張っていきたい。そのための第一歩としてのレポートのまとめ方はぜひ工夫をしていただきたい。

特にご発言がなければ、一旦ここで議論を終了する。

<事務局> 本日いただいた意見は1つ1つお答えできるように話し合いを重ねてまいりたいと考えている。3点事務連絡をする。

1点目、次回は3月10日15時よりソニックシティ ホール棟4F国際会議室にて開催する。後日改めて通知する。

2点目、会議録については内容を確認いただいた後、ホームページにて公開する。

3点目、傍聴席の皆様へご連絡する。アンケートをお配りしているのでご協力をお願いしたい。

4. 閉会

以上